

農空間

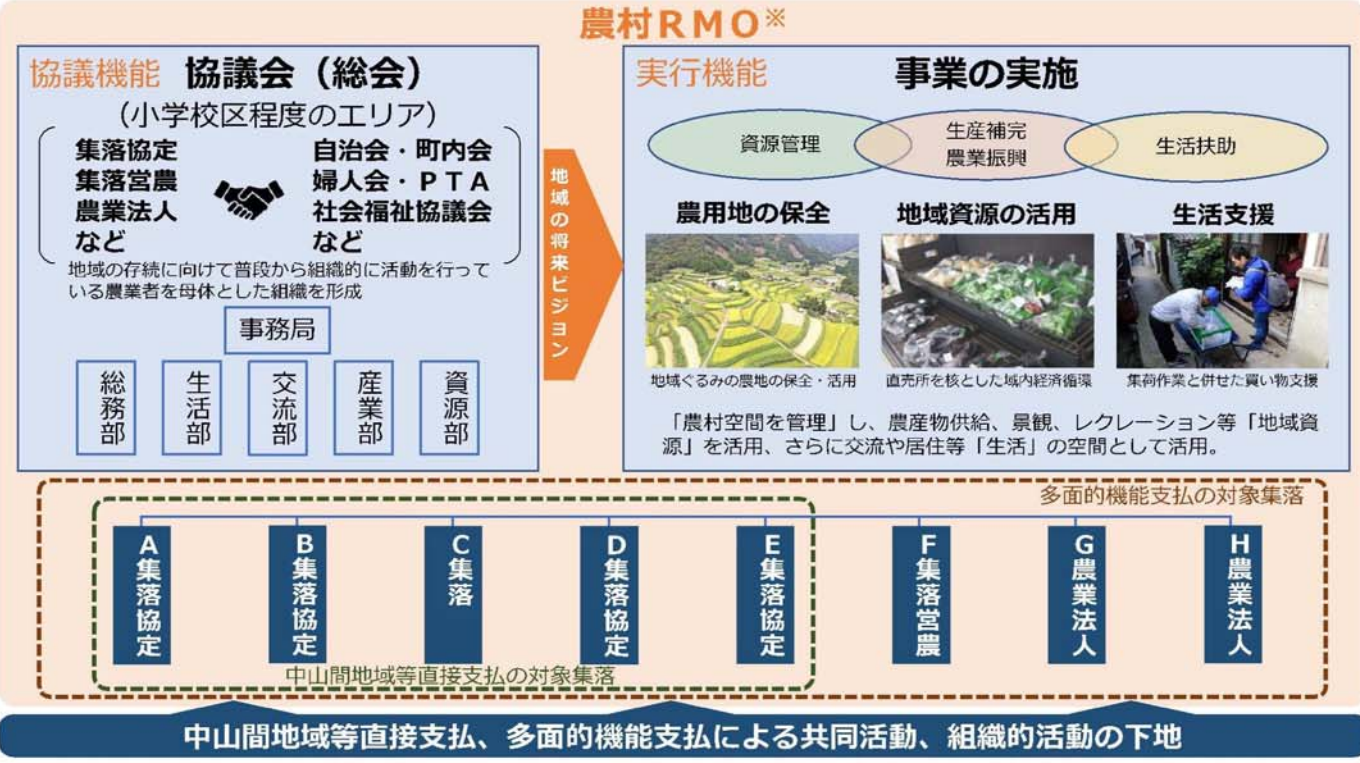
第87号

発行所
福島県農林水産部



地域で支え合うむらづくり

農村型地域運営組織(農村RMO)の形成支援



中山間地域の保全のための農村型地域運営組織(RMO)のイメージ

○なぜRMOが必要?

中山間地域では、集落内の戸数減少が顕著であり、農業生産活動のみならず、地域資源の保全、地域文化の継承、買い物や子育てなどの生活に直結する集落機能の維持も難しくなる状況にあることから、広域的な範囲で総合的に地域を支えていく組織づくりが重要となってきます。

○地域ぐるみの取組のきっかけ

どの地域においても、人口減少、高齢化、担い手や後継者不足、鳥獣被害の増加、これといった地域資源もないなど、課題を多く抱え、何から取り組めばいいのか分からないのが実情だと思えます。

多くの農村地域では、中山間地域等直接支払や多面的機能支払による共同活動が行われています。

まずは、これらの活動組織が中心となって、地域ぐるみの話し合いで「危機感」を共有することから努め、目の前にある地域の課題に対し、ひとりひとりが行動を起こし、有志、地域全体と徐々に活動の輪をひろげることが重要です。

農村RMOの形成のプロセスは非常に時間がかかるものですが、まずは住民が楽しんで活動できるものである

ことが大切で、小さな成功体験が自信につながり、さらに次の段階へ進む原動力となります。

○農村RMOの形成に向けて

令和4年度より、国の農山漁村振興交付金に農村RMO形成推進支援が創設されました。これは、地域住民らで組織する「地域協議会」が事業主体となり実施する、将来ビジョンの策定や実証事業等の取組に対して支援するものです。

県でも、関係機関・団体と連携し、取組意欲のある地域に対する情報提供や助言等の支援を行っていきます。

【農村振興課】

県内からの便り

ほ場整備における田んぼダムの取組について

いわき農林事務所

当所では、二級河川鮫川の左岸側で常磐自動車道を挟んだ約48haの水田地帯において、担い手への農地の集積・集約化を加速化させ、併せて収益性向上を図るため、『農地中間管理機構関連農地整備事業 山田地区』に令和2年度に着手し、令和3年10月から本格的にほ場整備工事を開始しました。

いわき方面では、令和元年東日本台風など近年の豪雨災害の激甚化・頻発化に備えるため、関係機関が協働して流域治水に取り組む機運が高まってきました。当地区は鮫川の堤防近くに位置し地区内を余木田川が流れ、下流域には市街地が広がる地理条件にあります。ほ場整備工事で流域治水対策として挙げられる田んぼダムに取り組みれば、毎年10ha前後田んぼダムが拡大し、また、均一的な品質の確保も期待できます。スマートフォンではあります。当地区から実践すれば他地区での導入が促進されるため、最初の工事が検討することとしました。



①排水柵(機能分離型) ②排水柵からの排水状況



①排水柵(機能分離型)

受益者に流域治水に向けてほ場整備で田んぼダムに取り組むことを提案したところ、賛同が得られたため、工事で田んぼダム仕様の排水マスを設置することとなり、令和3年度末までに22箇所(水田面積5.7ha)の設置が完了しました。

当地区で設置した排水柵は「機能分離型」(写真①)と言われるものです。豪雨が発生した際には、本体に雨水が流入し排水路に排出される過程で木製の排水調節板に設けた常時排水穴を通過するため排水量が絞られます。(写真②)これにより、大雨のピーク時に雨水を水田に貯留し、時間をかけて排水路に排出するので、河川への流入を遅らせ河川や流域の氾濫を減らす効果が期待できます。

いわき方面では令和3年度に夏井川、鮫川、藤原川の流域治水プロジェクトが公表されました。関係機関が協働して流域治水に取り組んでおりますので、当所においてもほ場整備における田んぼダムについて引き続き取り組んでいきたいと考えております。

新規採用職員の紹介

- ① 氏名・所属
- ② 出身地
- ③ 出身大学
- ④ 自己紹介

① 昌木 圭介(まさき けいすけ)
県南農林事務所農村整備部

② 埼玉県(出身地 二本松市)

③ 東京農業大学

④ 元々農業土木に興味があり、大学では農業農村工学を専攻しておりました。私の祖父母が福島県に在住しており、小さい頃から福島県に慣れ親しんでいたため、大学で学んだ知識を福島県の農業に活かしたいと思い、福島県の農業土木職を志望しました。

現在は、「ふくしまの農育」推進事業、国土調査事業、団体営補助金事業(機能保全計画)などを担当しております。

この半年ほどの期間でたくさん経験をさせていただき、まだまだわからないことばかりですが、周りの先輩方や上司に助けていただきながら業務に励んでおります。福島県職員として独り立ち出来るように、経験を積み重ねながら日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願ひします。



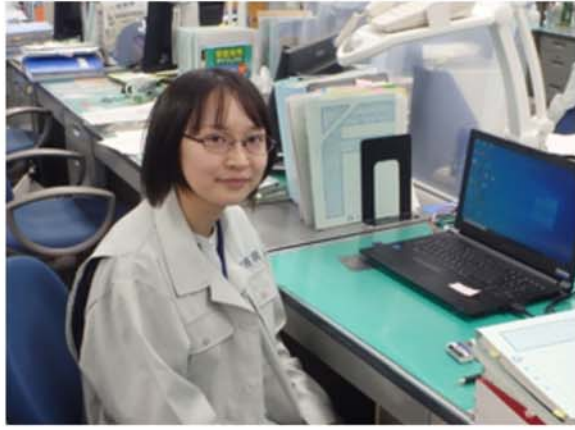
①吉田 優理(よしだ ゆり)
県北農林事務所農村整備部

②いわき市

③茨城大学

④大学在学中は茨城で過ごしましたが、地元である福島に戻りたいという気持ちと東日本大震災からの復旧・復興の力になりたいという想いから、福島県職員を志望しました。茨城の冬は寒さが物足りないと感じていましたが、いわき市をとうに超えて福島市にきたため雪国の脅威に若干おののいています。

農村整備課で県管理施設の地すべり防止地区を担当しています。初めて起工した設計書が入札不調となったため、現在は再発注に向けて設計書を作り直しています。書類や設計書の作り方、地元の方々の向き合い方など分からないことが多く、先輩方にご指導頂きながらなんとか業務に取り組んでいます。監督業務や事業の制度について日々学び、一人前の県職員になれるよう努めて参りますので、これからよろしくお願いたします。



農業土木職員
の一人です!



地域に根ざした水土里ネット 農業水利施設維持管理費の低減に向けて

郡山東部地区は、福島県郡山

市の東部、阿武隈山系に属する起伏の多い丘陵地帯に位置し、山林原野と小規模な田畑が複雑に入り組んでいるため、農業経営規模は小さく、また、農業用水は地区内の小河川に依存しているため、慢性的に用水が不足しています。そのため、農業生産性の向上と経営の安定化を図ることを目的に、国営総合農地開発事業郡山東部地区(昭和54年度〜平成13年度、受益面積1528ha)により、新たな農地の造成及び既耕地の農地整備並びに農業用排水施設の改良が行われました。

本土地改良区では、国営事業により造成された基幹的農業水利施設(郡山東部取水工、金沢調整池、高柴調整池、揚水機場、導水路、幹線用水路等)の管理を日々行っていますが、耐用年数を超過した施設が増加するなど老朽化が進行しており、計画的な保全・更新が必要となっています。

このため、令和元年度から、県営事業による農業水利施設の更新(国営造成施設維持管理適正化事業(県営))に取り組んでおり、施設の機能保全と維持管理費の軽減に努めております。

また、国営事業の償還がまだ続いているため、令和元年度からは、県中農林事務所農村整備部や農業振興普及部と連携しながら、遊休農地の解消(写真①)を行うとともにタマネギの実証ほ場を設置し、高収益作物の導入による償還金の払い易い環境づくりに向けて活動を行っているところです。

郡山市東部土地改良区
事務局長 荒海 裕一



荒海事務局長



①R3年度耕作放棄地解消工事【西田町土棚地内】



③ R3年度谷田川ディスクバルブ更新工事

②R2年度遊休農地解消工事【田村町手代木地内】

福 耕 支 援 隊 情 報

【氏名】志田 佐織 主査(静岡県)

【所属】農村整備第一課

【担当】復興基盤総合整備事業 深野南地区

初夏の頃、ある酒蔵を見学する機会に恵まれました。社長さんの「酒を飲むときには肴がともにある。飲食するには器がいる。いろいろなものをつなぐ仕掛けを、一次産業に携わる人がスターになれる場を作りたい」というお話が印象的でした。生産者がスターであるなら、農業農村基盤整備事業は、ステージを作る仕事だなと感じて、舞台鑑賞が好きなお身としては嬉しくなります。復旧、復興の先に、生産者(推し)が輝く未来があるように、業務に加えて、福島県産品を食べ、布教することで力になれたら幸いです。



志田主査(静岡県)



「福耕支援隊」とは…福島県の被災した農地を再び耕し、おいしい農作物を作るため全国各地から支援にいらしている農業土木職員の愛称です。

【氏名】水木 健裕 技師(青森県)

【所属】農村整備第一課

【担当】復興基盤総合整備事業 太田地区

4月から半年があつという間に過ぎました。初のほ場整備事業の担当。「機械の運転時間計算とは何ぞや?」「土柱方式とは?」の世界からスタートしましたが、恵まれた上司陣に囲まれ、サポートを受けてここまで来ました。ありがとうございます。先ずは自分で仕事を「やりきった!」と言えるだけの努力をしよう。そして「任せて良かった」と言われる評価を受けられれば、万々歳です。まだまだ勉強中。たくさん教えて下さい。



水木技師(青森県)



「農空間」とは…農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあつた空間の事です。